神の小羊

知っておきたいキリスト教のことば　(43)

「世の罪を除く神の小羊よ、憐れみをお与えください」

聖公会の礼拝では、聖餐式の中で陪餐を受ける前に、このような言葉を唱え（歌い）ます。神の小羊というのは、イエス様の呼称の一つです。

この「神の小羊」という表現は、新約聖書ではヨハネによる福音書にのみ出てきます。そこには、「その翌日、ヨハネは、自分の方へイエスが来られるのを見て言った。『見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ。』（ヨハネによる福音書 1 章 29 節）」と書かれています。

旧約聖書では、小羊は神さまに献げるいけにえとして出てきます。出エジプトの最後の災いのときには、イスラエルの人々は家の門に小羊の血を塗って、神さまへの誓いのしるしとしました。また出エジプト記 12 章では、主の過越の規定の中で、いけにえの小羊を用意するようにと定められています。

さらにイザヤ書 53 章を見てみると、苦難の僕の描写を「屠り場に引かれる小羊のように　毛を切る者の前に物を言わない羊のように」と書きます。このように旧約聖書において「小羊」は、代表的ないけにえのささげ物です。

それでは、イエス様が「神の小羊」であるということは、どういうことでしょうか。イエス様が十字架につけられたこと、それはわたしたち一人ひとりの罪の贖いとして、自らがいけにえになられたということなのです。

イエス様の死を通して、またいけにえである「小羊」の血によって、神さまと人間との関係を正しくする。それがイエス様の来られた目的です。

イエス様が、わたしたちの罪が赦されるためにささげられたことを心に留めながら、感謝していきたいと思います。

次回は「神の似姿」です。お楽しみに。